

二〇二二年二月一日

枯蔦を鎧ふ古城のアーチ窓	むべ
ものいへば真白な齒や炭焼夫	かかし
遠山の尾根白々と師走来る	こすもす
リビングへ玉の陽射しや窓小春	はく子
冬ざるる苑の遊具に子らを見ず	わかば
旧友と久闊を叙すおでん酒	宏 虎
黒ネクタイ緩め屋台のおでん酒	かかし
羅漢みな赤き帽子や雪蛭	なつき
古町の紅葉かつ散る築地塀	ぼんこ

毎週句会秀句・みのもる選・二〇二二年二月一日